



2021年3月16日

各位

会社名 株式会社電算
 代表者名 代表取締役社長 轟 一太
 (コード番号: 3640 東証一部)
 問合せ先 代表取締役専務 丸山 沢水
 (TEL. 026-224-6666)

業績予想の修正及び減損損失（特別損失）の計上に関するお知らせ

当社は、2021年3月16日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2020年5月15日の「2020年3月期決算短信」で公表いたしました2021年3月期通期（2020年4月1日～2021年3月31日）の業績予想を修正することとしました。また、下記のとおり2021年3月期に特別損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 2021年3月期通期の連結業績予想数値の修正（2020年4月1日～2021年3月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	15,720	343	374	257	46.12
今回修正予想 (B)	16,080	1,060	1,060	570	104.29
増減額 (B) - (A)	360	717	686	313	
増減率 (%)	2.3	209.0	183.4	121.8	
(参考) 前期連結実績 (2020年3月期)	14,869	300	313	261	46.94

(2) 修正の理由

2021年3月期通期の連結業績については、新型コロナウイルス感染症の収束時期が不透明な状況が続き、2021年3月期に売上を予定している案件を予定通り受注できるか不確定な状況であったことから、2020年5月15日の「2020年3月期決算短信」で公表した業績予想を変更しておりませんでした。しかしながら、2021年3月期第3四半期連結累計期間において新型コロナウイルス感染症対策に伴う各種給付金対応等の制度改正対応を受注したこと、2021年3月期に売上を予定している案件を順調に受注できたことに加え、新たな案件として、公共分野における新型コロナワクチン接種券対応等を受注したことがあり、売上高が当初の業績予想を上回る見込みです。利益においても、上記の案件による売上高の増加に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、客先訪問を自粛し、Web会議や電話対応による営業活動を推進したこと、及びシステム展示会やセミナーの開催中止に伴い営業活動費が減少したこと等により、当初の業績予想を上回る見込みです。

なお、次項2「減損損失（特別損失）の計上について」のとおり、2021年3月期の連結決算にお

いて減損損失を特別損失として計上するものの、以上の状況から、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がいずれも 2020 年 5 月 15 日に公表した通期の業績予想を上回る見込みです。

(注) 業績予想に関する留意事項

上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報等に基づいて算定しておりますが、多分に不確定要素を含んでおります。従いまして、実際の業績結果は、状況の変化など様々な要因によって、上記の予想・見込みとは異なる場合がありますので、ご承知おきください。

2. 減損損失（特別損失）の計上について

(1) 減損損失の内容

連結子会社の株式会社ティー・エム・アール・システムズに係るのれんを減損処理し、減損損失 120 百万円を特別損失として計上する見込みです。

(2) 減損損失の理由

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、同社の顧客である病院やクリニックにおいては、2020 年度に売上を予定した案件の執行見送り及び来年度以降への延期並びに失注が発生しており、同社単体の 2021 年 3 月期通期の業績は、当初の予想より減収減益の見込みであり、同社に係るのれんの回収計画に対して遅れが発生しています。また、新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として不透明な状況であり、コロナ禍の長期化による同社が手掛ける医療分野への影響は、来年度以降も継続することが予想され、のれんの回収は、更に遅れる可能性があります。

これらの状況を踏まえ、将来の回収可能性を検討した結果、減損処理すべきであると判断いたしました。

以上